矢掛町立川面小学校　発刊　2017年6月12日　第180号

蛍樟新聞
（けいしょう）

学校教育目標
心豊かで，よく学びよく遊ぶ児童を育成する
やさしい子　考える子　強い子

山々が新緑から深緑に変わっていき、もう紫陽花の季節となってきました。宇内のホタルも乱舞し、夏の訪れを感じます。天気のよい日は気持ちのいい風が吹きますが、梅雨入りが発表され、天候不順な時期となってきますので、健康面にはお気をつけてください。

“輝く笑顔　パワー全開　川面っ子”
感動いっぱいの運動会

５月２０日に行われました運動会では、真っ青な空のもと、子どもたちはパワーあふれる競技、真剣な顔や笑顔いっぱいの演技を見せてくれました。暑い日となりましたが、全員が心を一つにして，一生懸命演技する姿は、見ている多くの人々に感動を与えることができたと思います。終わった後に、多くの方から、「すばらしい運動会でしたね。」「子どもたちがとても頑張っていましたね。」と声をかけていただきました。

当日のご声援を始め、それまでの励まし、前日からの準備や終了後の片付け等，多くの方々のご協力をいただいたことにも深く感謝申し上げます。地域・保護者・児童・教職員が一丸となる「チーム川面」の力を大いに発揮された運動会となりました。ありがとうございました。

地域とともにある川面小学校

昨年の今頃、熊本大地震で被害にあわれた熊本県の嘉島町というところに災害ボランティアに行ってきました。震源地の益城町の隣の町で、被害は大きい町でした。その時には、自分の力が微力であることを思い知らされましたが、そのことよりも、その町のコミュニティの強さ、人々のつながりの強さに心を打たれました。現在、日本の課題になっている中山間地域は、この強いコミュニティが残っています。もちろん川面地域もすばらしい絆があります。ですから、子どもたちはふるさとの人や自然、歴史や文化、いろいろなもののよさをしっかり感じ、学び、未来のコミュニティを築く豊かでたくましい心をもってほしいと願っています。そのためにも、今、学校だけでなく、川面地区のコミュニティ全体が子どもたちを支え、そして、子どもたちが地域を支えることができる存在に育つよう、地域の方々と手を携えてやっていきたいと思います。今後とも、「地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）」づくりにご協力をよろしくお願いします。

～１学期を折り返しました～

水泳シーズン到来！

６月１日に、町内で一番早くプール開きを行いました。水泳シーズンの到来です。気温や水温が上がらず、まだ身体が水に慣れないでしょうが、プールから元気で楽しい声が響いています。水泳は全身運動で、骨や関節に負担が少なくバランスよく鍛えられます。夏の間のほんの短い間ですが、水にしっかりと慣れ、バランスよく、より遠くまで、より速く泳げることを目指してほしいと思います。先生の指導を素直に聞いたり、友だちの泳ぎを見合ったりしながら、各自の設定した目標を達成できるよう頑張ってほしいと思います。

６月２０日からは、家庭学習強化期間です。

６月２０日（火）～２７日（火）までは，「家庭学習強化期間」です。矢掛町の学校全体で取り組むものです。この期間を一つの機会にしていただき、「家庭学習」を見直したり、「家庭学習の手引き」を活用して新しい取組をしたりしてくださればと思います。この期間はご家族みんなで「家族の目標」を決めて、お子様の家庭学習を支えていただきたいと思います。家庭学習の習慣を身につけ、学び続ける素地づくりにご協力をお願いします。

心肺蘇生法の講習にご参加、ありがとうございました。

６月８日（木）の授業参観後の心肺蘇生法講習にはたくさんの保護者の方にご参加いただき、まことにありがとうございました。あってはいけないことですが、水の事故等でいざというときには、あせらずに対応することが大切です。そのためにも、一年に一度のこの講習を受け、体験を通して理解しておくことが必要です。みなさんが真剣に受講されていましたので、とても安心しています。

夏休みのプール監視にはどうぞよろしくお願いします。

ヘルプカードを知ってください。

「ヘルプカード」は、知的障がいや聴覚障がい、義足や人工関節を使用している人、内部障がいや難病、妊娠初期の人など、援助や配慮を必要としていることが外見から分からない方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるように作成されたマークです。

例えば、知的障がいのある人の中には、困っているときにそのことを周囲にうまく伝えることができにくい人がいます。また、聴覚障がいのある人の中には、声をかけられても聞こえないためにコミュニケーションを取ることができにくい人がいます。（補聴器をつけても分からない時もあります。）

そうした人たちが緊急時などに周囲に支援を求めるために有効な方法です。日常的にこの「ヘルプカード」について知っていただくことは、障がいのある方がどのような支援を必要としているのかを知っていただくことにつながるため、障がいについて理解するためのきっかけとなります。保護者の皆様からお子様へも話をしていただきたいと思います。